

お 知 ら せ

件 名	平成20年度北海道開発局関係補正予算について
-----	------------------------

お知らせ内容

平成20年度北海道開発局関係補正予算について、別紙のとおりお知らせします。

平成20年度 北海道開発局関係補正予算について

平成20年度補正予算については、平成20年8月に「安心実現のための緊急総合対策」が取りまとめられたことを受け、緊急性や政策効果の高い施策に一般公共事業費等予算が計上されました。

(主な事業) (※具体例はP3以降参照)

- ・近年の台風災害等に対応した石狩川や十勝川等における洪水対策
- ・近年の豪雨災害の被災地における土砂災害対策
- ・再度・類似災害防止のための海岸保全施設整備
- ・法面对策等の道路防災対策、橋梁・トンネル等道路工作物の保全対策
- ・台風等による再度・類似災害防止のための港湾整備
- ・地震防災対策のための空港整備
- ・再度災害防止のための漁港施設の整備 等

○緊急総合対策

		うち一括配分
直轄事業	290億円	(126億円)
補助事業	34億円	(28億円)
計	324億円	(154億円)

平成20年度 北海道開発局関係補正予算(事業費)

【直 轄】

(単位:百万円)

事 項	補 正 追 加 額		備 考
		一 括 配 分	
治 水	7,247	—	
海 岸	212	—	
道 路 整 備	16,160	7,899	
港 湾 整 備	580	200	
空 港	200	—	
道 路 環 境	3,533	3,533	
水 産 基 盤 整 備	100	—	
官 庁 営 繕	987	987	
合 計	29,019	12,619	

【補 助】

(単位:百万円)

事 項	補 正 追 加 額		備 考
		一 括 配 分	
治 水	498	498	
海 岸	560	—	
道 路 整 備	2,320	2,320	
住 宅	25	—	
合 計	3,403	2,818	

【合 計】

(単位:百万円)

事 項	補 正 追 加 額		備 考
		一 括 配 分	
治 水	7,745	498	
海 岸	772	—	
道 路 整 備	18,480	10,219	
港 湾 整 備	580	200	
空 港	200	—	
住 宅	25	—	
道 路 環 境	3,533	3,533	
水 産 基 盤 整 備	100	—	
官 庁 営 繕	987	987	
合 計	32,422	15,437	

注1 計数整理の結果、異動を生じることがある。

2 四捨五入の関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

近年の台風災害等に対応した治水対策により、
安全・安心が確保された地域づくりを推進します

北海道 幌加内町、浦幌町など

北海道内では、平成15年8月、平成18年8月、10月の洪水など、近年においても各地で豪雨による浸水被害等が発生し、道民の生活に多大な影響を与えています。このような集中豪雨等による災害から地域の生活・生産基盤等を守るため、緊急的な治水対策として幌加内町（石狩川水系雨竜川）や浦幌町（十勝川水系下頃辺川）などにおいて、河道掘削等を実施し、安全・安心が確保された地域づくりを推進します。

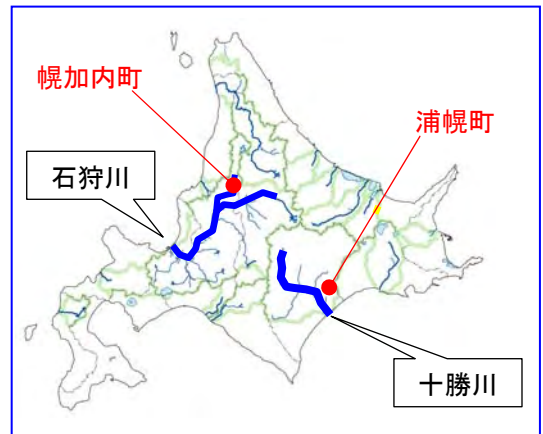
【北海道でも近年頻発している洪水】



○H18年8月洪水
雨竜川の状況



○H18年10月洪水
湧別川下流部の外水はん濫

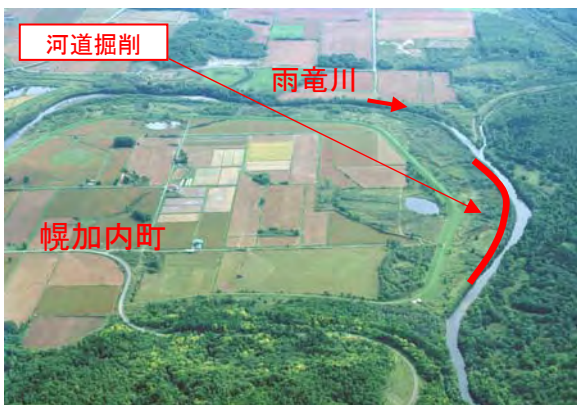


河道掘削等の治水対策を実施し、洪水による浸水被害の軽減を図り、地域の生活・生産基盤を守ります。（幌加内町・浦幌町など）

【石狩川水系雨竜川】



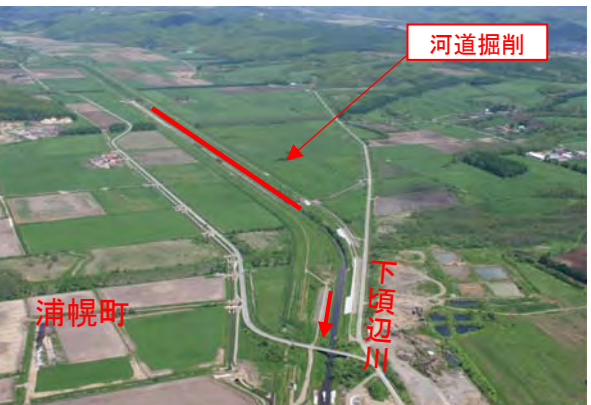
H18年5月洪水
(浸水状況)



【十勝川水系下頃辺川】



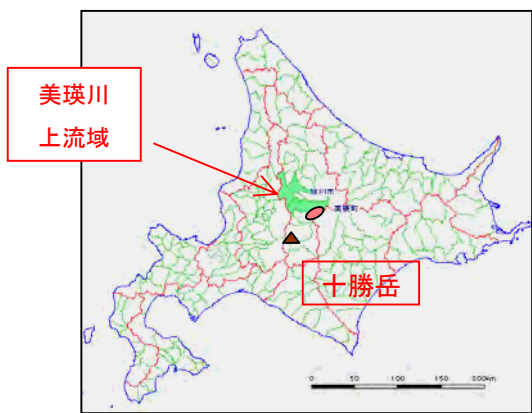
H15年8月洪水
(浸水状況)



頻発する自然災害に対応する根幹的治水施設整備 — 火山砂防事業（十勝岳：美瑛町） —

十勝岳では、大正15年の噴火による火山泥流により死者・行方不明者144名に及ぶ甚大な被害が発生しています。

また、平成元年度からは昭和63年の噴火による災害を契機として直轄火山砂防事業に着手し、火山災害から地域の生活・生産基盤を守るための整備を進めてきていますが、いつ起こるかわからない火山災害に対して早急な対策を図るため、火山泥流対策として美瑛川の河道掘削を促進します。



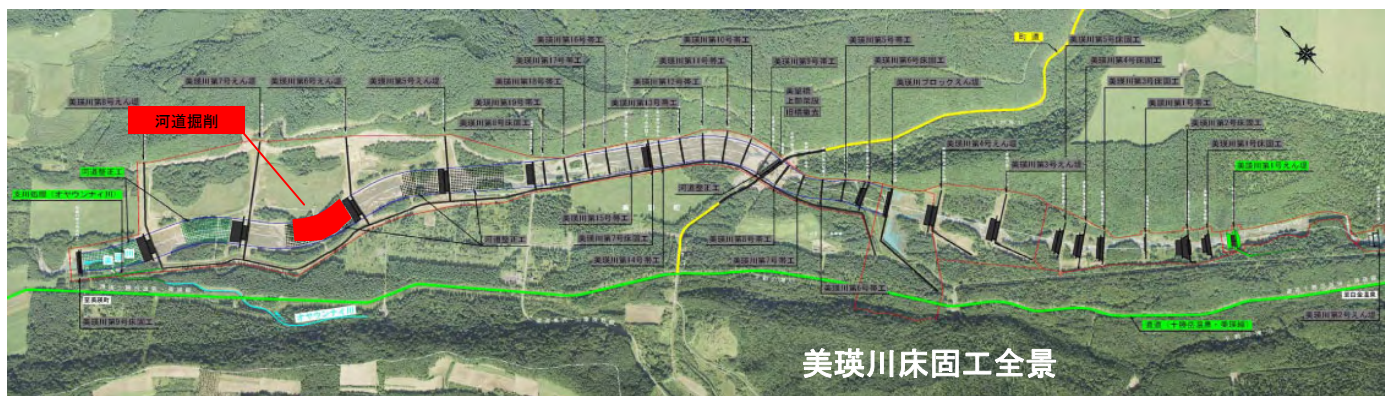
1988年(昭和63年)の十勝岳噴火状況



火山泥流対策として、美瑛川の河道掘削を促進します。



1926年(大正15年)の泥流災害

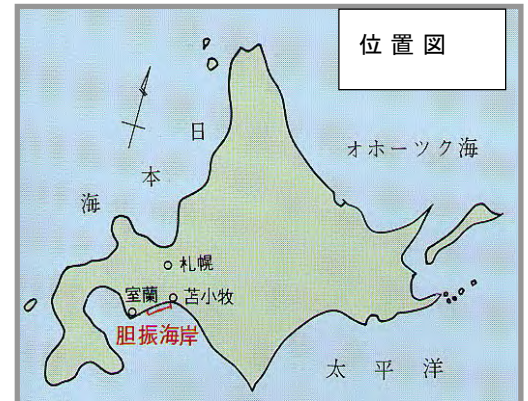


美瑛川床固工全景

頻発する自然災害に対応する根幹的治水施設整備

— いぶり 胆振海岸保全施設整備事業 (とまこまい 苫小牧市) —

胆振海岸は、北海道の物流の要である苫小牧港の西側に位置し、背後には重要交通網の国道36号線、JR室蘭本線が隣接するとともに、それらに面して住宅が密集しています。当海岸では、海岸侵食の進行により伴い、夏季から冬季にかけての台風や季節風による波浪災害が頻発しており、住民生活、経済活動に重大な影響を及ぼしていることから、海岸侵食対策として緩傾斜護岸を整備するものです。



波浪による越波状況



直立護岸の被災状況



一般国道336号 襟広防災

えりひろぼうさい

- ・一般国道336号は浦河町から釧路市に至る幹線道路です。
- ・襟広防災は、落石・土砂崩壊危険箇所の対策によって通行規制区間の解消を図り、安全で確実な通行の確保を目的とした延長18.7kmの防災事業です。
- ・平成20年度補正予算により、落石・土砂崩壊危険箇所の斜面对策を実施し、危険箇所の解消を図ります。

〔位置図〕

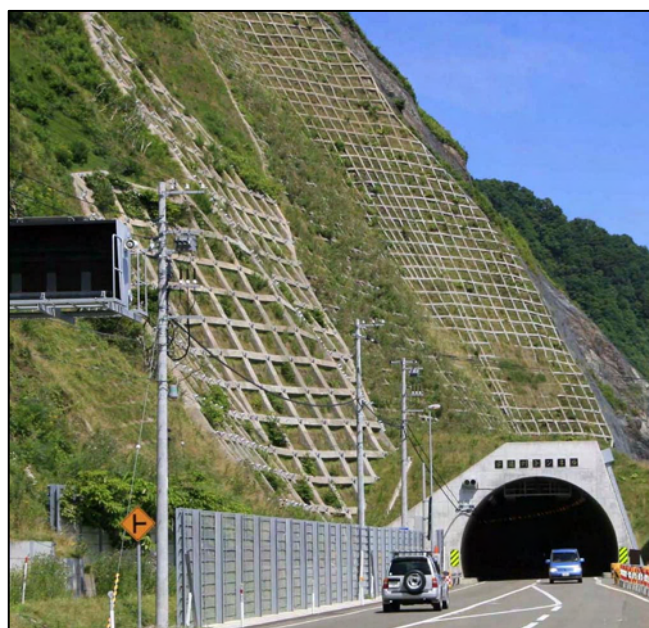


落石・土砂崩壊危険箇所の対策により、安全安心な通行を確保

〔大雨による被災状況〕



〔対策例〕



紋別港 本港地区 防波堤（北波除）（改良）

1. 事業概要

紋別港本港地区において、船舶の安全かつ効率的な運用を確保するため、港内静穏度向上を確保する防波堤の改良整備を行っている。

本地区は平成20年1月に発生した高波浪等により、係留していた船舶が損傷しており、荷役作業にも障害が発生していることから、再度災害防止のため、被害の防止・軽減に資する防波堤（北波除）（改良）の整備を推進する。

2. 計画内容

箇所名：紋別港 本港地区

実施内容：防波堤（北波除）（改良）

【位置図】



新千歳空港誘導路改良（耐震対策）

（直轄）

1. 概要

新千歳空港は、国内・国際航空路線の基幹空港であり重要な役割を担っています。そのため大規模地震災害時においても、空港機能を確保するために必要な耐震対策を実施しています。

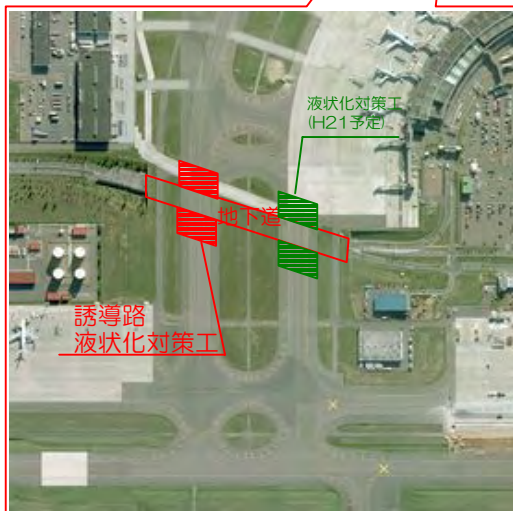
本改良は、地震に伴って空港内地下道の周辺地盤が液状化し、その上に設置されている誘導路に段差等の発生が懸念されるため、地盤改良を行うものです。地震時においても誘導路が閉鎖されることなく航空機が安全に走行できるなど、空港の運用が地震に影響されない安心して使える新千歳空港づくりを目指すものです。



2. 実施内容

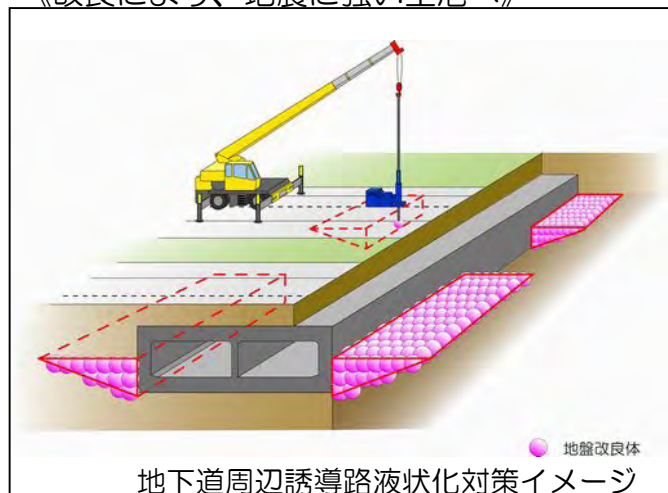
空港名：新千歳空港

実施内容：誘導路液状化対策 1式



新千歳空港地下道周辺誘導路改良区域

《改良により、地震に強い空港へ》



地下道周辺誘導路液状化対策イメージ

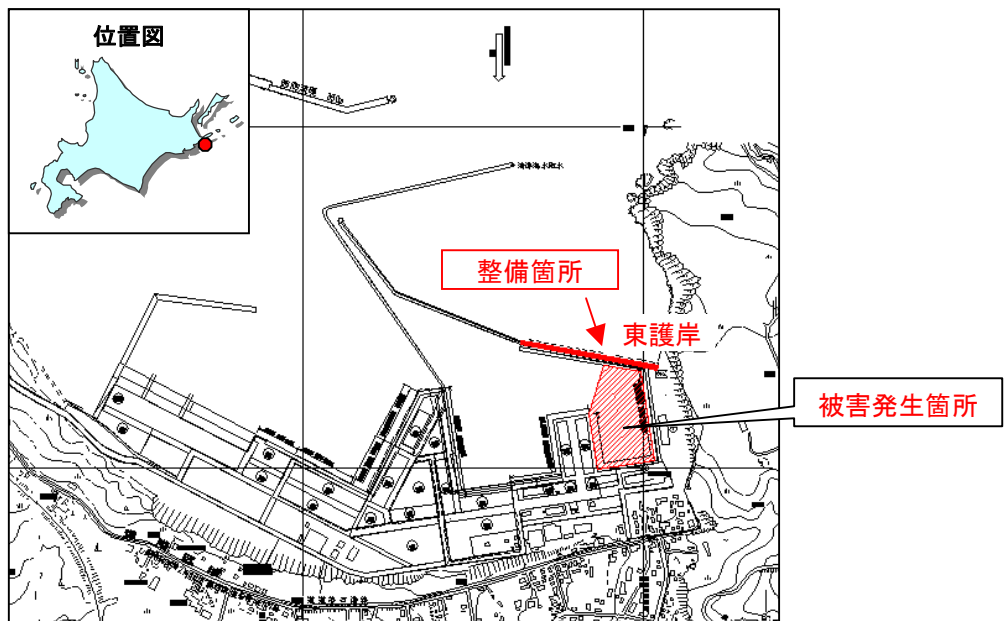
1 事業の目的

当該漁港は平成20年3月31日～4月1日にかけて北海道を通過した台風並みの低気圧により、漁港に係留していた漁船が損傷する被害が発生した。このことから、補正予算の投入により、防波堤の嵩上げ改良の整備を緊急に実施し、漁港内の再度災害を防止する。

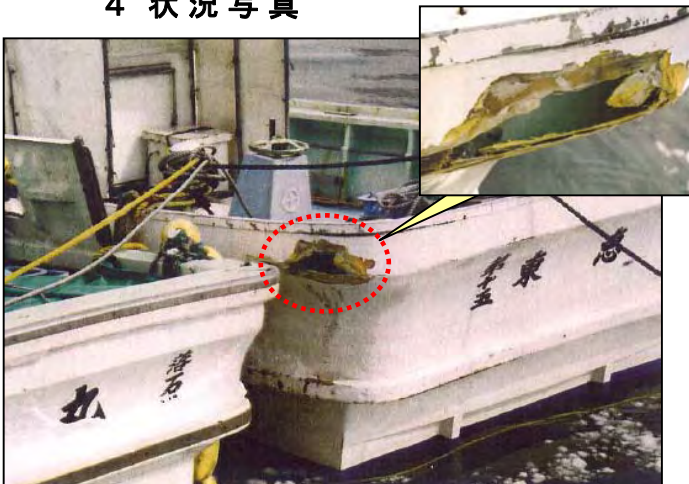
2 事業の概要

- ①事業箇所：北海道根室市
- ②事業主体：国
- ③事業内容：護岸の嵩上げ改良整備

3 平面図



4 状況写真



漁船被害状況(H20.4)



漁船被害状況(H20.4)